

第1学年 保健体育科（体育分野）学習指導案

山梨大学教育学部附属中学校

授業者 野沢 克美

1 単元名 B 器械運動（マット運動）

2 単元の目標

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができるようになる。
ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができるようにする。
- (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。

3 運動の特性

器械運動は、逆さになって回転したり、手で支えて跳び越したり、日常生活の中で普段から経験することが少ない非日常的な動きを特徴とする。そのため、生徒にとっては、恐怖心を抱いたり、どこをどのように動かしたり力を入れたりするのか、イメージすることが難しい運動である。また、技の特性から、「できる」「できない」が明確に現れるため、全ての生徒が様々な技に挑戦し、技ができる楽しさや喜びを味わうことができるように、生徒自身の技能に適した技を選んだり、課題に応じた練習方法を工夫したりすることが大切である。

器械運動が苦手な生徒が恐怖心を克服しながら安全に練習を工夫し、仲間と協力しながら技の完成に向けた練習を行えるように授業を進める。自分のイメージしている動きとタブレット端末を使用して実際に撮影した動きとの違いを比較することで、自分が気付かなかったことに気付いたり、仲間と協力しながらより良い動きになるようにアドバイスし合ったりすることで、体を動かす楽しさや喜びを味わうことができる知識や技能を獲得し、自己に合った技を見つけて練習を工夫し、運動に親しむことで継続して取り組む態度を養うことができる授業を展開していきたい。

4 生徒の実態

1年2組は、男子17名、女子19名、合計36名の学級である。男女ともに活気があり、一生懸命に授業に取り組む雰囲気が見られる。マット運動の授業前に実施したアンケートでは「運動が好き」80.8%、「嫌い」3.8%、「どちらでもない」15.4%という結果になった。「好き」と回答した生徒は、「運動好き」が多いのだが、「達成感を感じられたり友だちと一緒に取り組んで楽しかったり、リフレッシュできる」といった意見もあった。「嫌い」または「どちらでもない」と回答した生徒は、その理由に「種目よっての好き嫌い」「苦手、走るのが嫌い」であった。「苦手があるが、嫌いでもなくなってきた」という前向きな意見もあった。次にマット運動は好きかという質問に対して「嫌い」3.8%と「運動は好きですか」の質問と同じ数値となったが、「好き」と回答した生徒は57.7%に減少し、「どちらでもない」38.5%となった。「好き」と回答した主な理由は「技に挑戦し、達成感を感じられる」であった。「嫌い」または「どちらでもない」と回答し

た生徒は、その理由に「体が硬くて苦手」といった意見が多く見られた。比較的に男子は体が硬い傾向が見られ、女子は体操や新体操、男子に比べて柔軟性が高い傾向があるので、単元を通して自分自身の体の様子に気づきながら、マット運動の技能が向上できるように柔軟性を意識させて授業を進めていきたい。挑戦したり取り組んだ成果が実感できたりするような授業の進め方を工夫し、ケガなく安全に授業を行えるように心がける。どの生徒も自己の能力について知り、自分で選んだ技の習得を目指しながら「楽しさ」や「面白さ」を実感することができる授業を展開していきたい。技能に差がある生徒で構成するグループであっても、全ての生徒が主体的であり、見通しをもって授業に取り組むことができる授業にしていきたい。

5 第1学年及び第2学年「器械運動」の全ての「単元の評価規準」

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 器械運動には多くの「技」があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 器械運動は、種目に応じて多くの「技」があり、技の出来映えを競うことを楽しむ運動として多くの人々に親しまれてきた成り立ちがあることを言ったり書き出したりしている。 技の名称は、運動の基本形態を示す名称と、運動の経過における課題を示す名称によって名づけられていることについて、学習した具体例を挙げている。 技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 器械運動は、それぞれの種目や系などにより主として高まる体力要素が異なることについて言ったり書き出したりしている。 発表会には、学習の段階に応じたねらいや行い方があることを言ったり書き出したりしている。 	<p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。 開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや手の着き方などの条件を変えて回ることができる。 学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。 全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。 開始姿勢や終末姿勢、手の着き方や組合せの動きなどの条件を変えて回転することができる。 学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回転することができる。 バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元させるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。 姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止することができる。 学習した基本的な技を発展させて、バランスをとり静止することができる。 <p>*鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動は省略</p>	<ul style="list-style-type: none"> 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見つけている。 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や発表を行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 よい技や演技に称賛の声をかけるなど、仲間の努力を認めようとしている。 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 健康・安全に留意している。

6 第1学年「器械運動（マット運動）」の「単元の評価規準」

知識・技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<p>○知識</p> <p>①器械運動には多くの技があり, これらの技に挑戦し, その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて, 言ったり書き出したりしている。</p> <p>②技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントについて, 学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>①体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で, 基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。</p> <p>②全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方, 回転力を高めるための動き方, 起き上がりやすくするための動き方で, 基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。</p> <p>③バランスよく姿勢を保つための力の入れ方, バランスの崩れを復元させるための動き方で, 基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に, 仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②提供された練習方法から, 自己の課題に応じて, 技の習得に適した練習方法を選んでいく。</p>	<p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして, 仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。</p> <p>③健康・安全に留意している。</p>

7 具体的な指導内容と「単元の評価規準」

知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
知識	技能		
<p>マット運動には, 回転系や巧技系の技があり, これらの技に挑戦し, その技ができる楽しさや喜びを味わうことができる運動であること。</p> <p>↓</p> <p>①器械運動には多くの技があり, これらの技に挑戦し, その技ができる楽しさや喜びを味わうことについて, 言ったり書き出したりしている。</p> <p>↓</p> <p>技の行い方には, 技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあること。</p> <p>↓</p> <p>②技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントについて, 学習した具体例を挙げている。</p>	<p>基本的な技の前転や後転など, 背中をマットに接して回転すること。その技に求められる動きが途切れずに続けてできること。</p> <p>↓</p> <p>①体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で, 基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。</p> <p>↓</p> <p>基本的な技の側方倒立回転や頭はねおきなど, 手や足の支えで回転すること。その技に求められる動きが途切れずに続けてできること。</p> <p>↓</p> <p>②全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方, 回転力を高めるための動き方, 起き上がりやすくするための動き方で, 基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。</p> <p>↓</p> <p>基本的な技の片足平均立ちなど, バランスをとりながら静止すること。</p> <p>↓</p> <p>③バランスよく姿勢を保つための力の入れ方, バランスの崩れを復元させるための動き方で, 基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。</p>	<p>学習した改善についてのポイントや課題を見つけ出し, 言葉や動作でわかりやすく伝えること。</p> <p>↓</p> <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に, 仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>↓</p> <p>課題解決にはいくつかの方法があり, 効果的な取り組み方を工夫したり, 発見したりすること。</p> <p>↓</p> <p>②提供された練習方法から, 自己の課題に応じて, 技の習得に適した練習方法を選んでいく。</p>	<p>仲間の学習を援助することは, 自己の能力を高めたり, 仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながる。</p> <p>↓</p> <p>①練習の補助をしたり仲間に助言したりして, 仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>↓</p> <p>様々な違いを超えて, 参加者全員が楽しんだり達成感を味わったりするための工夫や調整をすることで, グループの人間関係がよくなることにつながる。</p> <p>↓</p> <p>②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。</p> <p>↓</p> <p>体調の変化などに気を配ること, マットなどの用具の扱い方, 練習する時に接触や衝突しないようお互いに気をつけることが大切であること。</p> <p>↓</p> <p>③健康・安全に留意している。</p>

8 「器械運動（マット運動）」第1学年における指導と評価の計画

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができるようにする。 ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることができるようにする。										
	思考力、判断力、表現力等	技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。										
	学びに向かう力、人間性等	器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。										
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	健康観察・ウォーミングアップ・本時のねらいの確認									<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で取り組みたい技、練習したい技に挑戦し、発表できるように設定する。 毎時間、生徒に目標を設定させる。 練習の場面で、アドバイスをし合う機会と自分自身で取り組む場面を設定し、練習の振り返りを次回に活かす。 ICT機器を活用し、授業外でも取り組める環境をつくる。 	
	10	オリエンテーション	基本的な技の練習			映像から振り返り			発表会練習・リハ	発表会		
	20		個人（グループ）練習			課題の確認と解決練習（班内で）						
	30					個人練習						
	40		学習の振り返り・次時の確認			単元のまとめ						
45												
50												
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法
	知	①			②							総括的な評価 総括的な評価 観察 観察、学習カード
	技			①	②	③						
	思						①		②			
態		③				②	①					
単元の評価規準	知	①器械運動には多くの技があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。 ②技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることを、学習した具体例を挙げている。										
	技	①体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。 ②全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくなるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。 ③バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを還元させるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。										
	思	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。										
	態	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ③健康・安全に留意している。										

9 全体研究との関わり

(1) 本單元における「主体的に学習に取り組む態度」の評価

全体総論で示された、『主体的に学習に取り組む態度』の評価の枠組みに基づき評価規準を設定した。器械運動の單元全体における「主体的に学習に取り組む態度」の目標「器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。」の中から、本單元では「仲間の学習を援助しようとする」、「一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする」について取り扱うこととしている。本時案では「練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。」について評価を行う。技の習得や上達に向けた仲間の取り組みに対してどのように助言し援助しようとしているのか、よりよい学習方略を求めて、必要な修正を続けようとする姿を話し合いに参加する様子から観察すること、学習カードへの記述の様子から評価できるようにしたい。仲間への関わり方と仲間との関わり方の両面から生徒の学習に取り組む姿勢を見取っていききたい。

課題に対する評価指標を「粘り強く学習に取り組む」側面と「自己調整しながら学ぶ」側面について設定し、それぞれの側面に関わる学習状況について学習シートを活用させたい。

(2) 附属中「主体的な学び」のプロセスモデル

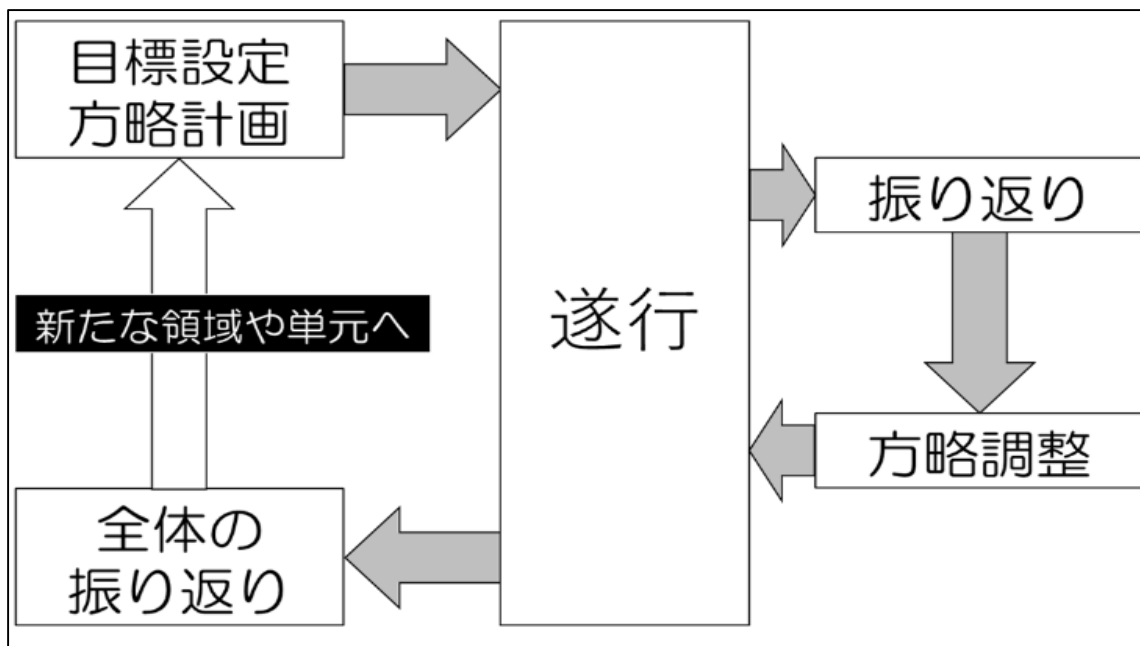


図2 「主体的な学び」のプロセスモデル

	エンゲージメントの高まり（生徒の姿）
目標設定	<ul style="list-style-type: none"> 高いレベルの関心をもつ課題や日常生活で直面する課題，現実世界で解決すべき課題，自らのキャリア形成に関連する課題を選択する。 挑戦の感覚，知的好奇心，学習への期待感をもつ。
方略計画	<ul style="list-style-type: none"> ゴールを設定し，過去の学習経験を活かしながら，課題解決のための学習方略を考える。
遂行	<ul style="list-style-type: none"> 計画に基づいて，学習を遂行する。 計画した方略や必要に応じて調整した方略に基づいて，個人やグループでの学習活動に熱心に参加する。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 自らの学びの効果を振り返る。また，学習の進み具合を把握し，見通しをもつ。
方略調整	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて学習方略を修正する。
全体の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 自らの学びの質や成果を振り返る。 学ぶ面白さや楽しさを感じたり，有能感や充実感をもったりする。

表3 「主体的な学び」の具体像

	エンゲージメントの高まり（実践の中から見えてきた生徒の姿）	
	粘り強く学ぶ	自己調整しながら学ぶ
目標設定	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習内容を、他教科の学習や自らのキャリア、生活、自らが生きる社会と関連づけて学習に取り組もうとしている。 単元の学習内容に興味や価値を見出して取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標に沿った、自分なりの学習目標を立てている。（発達段階によりレベルは違う）
方略計画	<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習目標の達成を目指して、よりよい学習方略を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の学習経験を活かしながら、目標達成のための学習方略を考えている。
遂行	<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習目標の達成を目指して、粘り強く学習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画した方略や必要に応じて調整した方略に基づいて、個人やグループでの学習活動に熱心に参加している。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習方略の成果と課題をよりの確にとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習方略をモニタリングし、その成果や課題を挙げている。
方略調整	<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習目標の達成を目指して、よりよい学習方略を求めて、必要な修正を続けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて学習方略を修正している。
全体の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習を通して、自らの目標達成のために努力し続けたことを明確にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習を通して、自らの目標達成のために工夫したことやその成果と課題を明確にしている。また、それを次の学習に活かそうとしている。

表4 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の枠組み

評価の観点	評価規準		Cの生徒をBに高める手立て	
	A	B		
		粘り強く学ぶ		自己調整しながら学ぶ
目標設定	学習の実現の程度について質的な高まりや深まりをもっていることが見取れる姿	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習内容を、他教科の学習や自らのキャリア、生活、自らが生きる社会と関連づけて学習に取り組もうとしている。 単元の学習内容に興味や価値を見出して取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標に沿った、自分なりの学習目標を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標の立て方の例を示す。 他の生徒が立てた目標を紹介する。 単元間のつながりや他教科とのつながりを説明する。 学習内容を生徒の関心や生活と関連づけて説明する。 学習内容の実践的価値を示す。
方略計画		<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習目標の達成を目指して、よりよい学習方略を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の学習経験を活かしながら、目標達成のための学習方略を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 類似する内容を学んだ時の学習方略を例として示す。
遂行		<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習目標の達成を目指して、粘り強く学習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画した方略や必要に応じて調整した方略に基づいて、個人やグループでの学習活動に熱心に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習活動について、個人や集団など様々な単位で肯定的な声かけを行う。
振り返り		<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習方略の成果と課題をよりの確にとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習方略をモニタリングし、その成果や課題を挙げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の振り返りに対してフィードバックを行う。 他の生徒の振り返りや方略調整について紹介する。
方略調整		<ul style="list-style-type: none"> 自らの学習目標の達成を目指して、よりよい学習方略を求めて、必要な修正を続けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて学習方略を修正している。 	
全体の振り返り		<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習を通して、自らの目標達成のために努力し続けたことを明確にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習を通して、自らの目標達成のために工夫したことやその成果と課題を明確にしている。また、それを次の学習に活かそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の具体的な学習活動の様子を挙げるとともに、振り返るための視点を具体的に示す。

10 本時の展開（7 / 10時間）

(1) 本時の目標

- ・課題解決に向けた練習を仲間と協力して行いながら、技能の向上を実感したり、改善に向けたポイントを探求したりする活動を行う。

(2) 本時の学習評価

- ・練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

	学習内容・活動	評価方法及び評価規準
はじめ	1 ランニング，体操 2 あいさつ，本時の学習の確認 ・本時のねらいと学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">ねらい：仲間と協力して練習し，選んだ技の習得や上達を目指して取り組もう。</div> 3 W-u p (前転系，後転系，壁倒立，側方倒立回転)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の流れ・自分の目標がイメージできるように，前回までの復習・確認をさせる。 ・マット運動が安全にできるように感覚練習を自分のペースで行わせる。
なか	*生徒は各グループに1枚のマットを使用して活動する。 4 ICT機器を活用し，前回までの課題，改善ポイントなどを共有する。(グループ内) ・技の出来映えに対してコメントをし合い，内容を確認して共有する。 5 アドバイスをもとに課題解決に向けた練習や改善ポイントについて動きながら共有する。 ・タブレット端末を使って撮影して出来栄を確認したり，前回の映像と比べたりすることで改善するポイントを明確にする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">タブレット端末を使い，グループ内で協力してアドバイスポイントの確認を行う。</div> 6 自分の技の出来映えについて改善ポイントが共有できたところで個人練習を行う。 7 本時の練習成果の記録と振り返りを行う ・次回への課題(目標)が立てられるように記録・記入する。 ・練習の中で気付いたことや試してみたいアイデアなど，学習ノートにメモし，グループ内で共有できることは忘れないうちに行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット端末を使ってこれまでの練習で意識してきた技のポイント，課題を確認し，グループ内に伝えさせる。 ・自分の技に対してのアドバイスコメントを確認し，グループ内で課題解決に向けたポイントの確認や練習する方法などについて確認させる。 ○アドバイスコメントに対して動きながら確認したり，映像でチェックしたりして，本時に取り組むべきポイントを明確にさせる。 ・視点の確認を行わせる <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">「手なのか足なのか」，「姿勢や向き」，「配置」，「タイミング」など</div> 評価：練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。 <div style="text-align: right;">【主体的に学習に取り組む態度】</div> ●努力を要する状況の生徒への手立て ・どの場面を観察したらいいのか視点を伝え，焦点化して観察することで，気付いたことやどこが良いか，どこをどのように直したらいいのか指摘したりできるように支援する。 ○アドバイスされたことから自分なりの改善ポイント，練習方法を考えて取り組む。 ・安全の確保を徹底し，撮影等で協力できることはグループ内で取り組ませる。
まとめ	8 本時の練習を振り返り，成果を共有する。 ・練習で気付いたことや有効だったアドバイスなどを紹介し，どのように成果があったか，次回に挑戦したいことなどについて発表し，共有する。(全体) ・次時の学習内容の確認 9 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の取り組み状況を振り返り，グループ内でのアドバイスや練習，仲間の発表を聞きながら次回への授業のイメージをもたせる。 ○生徒の健康状態を把握する。

1 1 課題に対する評価指標(身に付けさせたい資質・能力を可視化する手立て・規準)

【主体的に学習に取り組む態度】

・練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

(観察・学習カード) 振り返り・方略調整

実現状況	判断の目安	想定される様相
「十分満足できる」状況 (A)	○教師が指導した動きのポイントを参考に練習し、その出来映えや結果など、課題の解決に向けた話合いに積極的に参加したり、その内容を具体的に記入したりしている。	・①, ②の視点で学習の実現の程度について質的な高まりや深まりをもっていることが見とれる姿。
「おおむね満足できる」状況 (B)	○教師が指導した動きのポイントを参考に練習し、その出来映えや結果など、課題の解決に向けた話合いに参加したり、その内容を記入したりしている。	①練習に取り組んだ成果を振り返り、課題の改善に向けて練習方法を試行錯誤したり、改善ポイントを探したり、よりよい学習方略を求めて必要な修正を続けようと言合いに参加したりする様子が見られたり、カードに記入したりしている。(粘り強さ) ②練習に取り組んだ成果をモニタリングし、その成果や課題を見つけ、改善を図るための学習方略の修正を行う。自分自身だけで実施するのではなく、仲間と協力しながらアドバイスをしたりされたりする活動を通して、練習を調整したり、話合いに参加したりする様子が見られ、カードに記入したりしている。(自己調整)
「努力を要する」状況 (C)	○教師が指導した動きのポイントの理解が不十分で、その出来映えや結果など、課題の解決に向けた話合いに参加できず、内容を記入できない。	①, ②の視点に対して、仲間に助言したり、その内容を記入したりしていない。 ※グループごとに指導する中で、教師がつなぎ役になるようなアドバイスをするなどして、学習を支援する。 ・生徒の振り返りに対してフィードバックを行う。 ・他の生徒の振り返りや方略調整について紹介し、共有する。

1 2 体育館内のマット配置

